

2019年度NACCS地区協議会 (プログラム変更概要説明資料)

私たちは、お客様と共に歩み、
「人・物・国」をつなぐNACCSを通じて、
国際物流の発展に貢献します。

令和元年11月～12月

輸出入・港湾関連情報処理センター株式会社

1. CFSから輸入貨物を引き取る際の手続きのシステム化
2. 「コンテナオペレーション会社コード」一括訂正業務の新設
3. 出港前報告情報を利用した積荷目録情報登録機能の不要設定を登録する利用者設定業務の新設
4. 包括延納に係る一括納付書出力単位の変更

これから説明いたします4案件は、

来年3月15日(日)にリリース予定です。

ぜひ、ご活用ください！



1. CFSから輸入貨物を引き取る際の手続きのシステム化

(1) プログラム変更概要

CFS※（保税蔵置場）から輸入貨物を引き取る際、引取を依頼する荷主等がCFSに対して「搬出を依頼する業務」、CFSから「搬出依頼に対して回答する業務」及び「引取り依頼期限（時間）を制御する業務」を新設致します。

業務新設前

荷主等（海貨業者等）

搬出を依頼

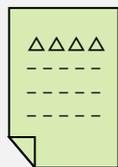
FAX



依頼

CFS（保税蔵置場）

搬出依頼の受取



業務新設後

NEW!

輸入CFS引取予定
情報通知
RCS01

依頼通知

NEW!

輸入CFS引取確認
情報通知
RCT01

回答通知

NEW!

引取り依頼期限を
登録



NEW!

輸入CFS引取予定
情報受付日登録
UCT

(※) 「CFS」とは「Container Freight Station」の略であり、コンテナに混載されてきた貨物をコンテナから仕分け等を行う場所のこと。

1. CFSから輸入貨物を引き取る際の手続きのシステム化

(2) 業務フロー（荷主等→保税蔵置場）（業務画面・帳票イメージ）

(※) 画面・帳票イメージは全て開発中のものです。

荷主等から保税蔵置場へ通知する際の業務画面イメージ及び帳票イメージは以下のとおりです。



【図1】 呼出し画面

この画面は「RCS11 輸入CFS引取予定情報通知呼出し」のスクリーンショットです。入力欄には「日/L番号*」、「ID通知番号」、「通知先コード*」が設定されています。

【図2】 通知画面

この画面は「RCS01 輸入CFS引取予定情報通知」のスクリーンショットです。通知先コード、日/L番号、船名、航路番号、入港日、個数、重量、容積、引取予定日、引取業者名、税関検査有無/予定日/返却、社内整理番号、連絡先、記事(1)、記事(2)などの詳細な入力項目があります。

RCS11業務で呼び出した場合には、通知先の利用者が管理する保税地域コード等を出力する。併せて、通知先の利用者が「輸入CFS引取予定情報受付時間登録」(UCT)業務で設定した記事欄を出力する。
(当該「記事欄」には、RCS01業務で依頼通知を行う際の通知事項が設定される)

【図3】 依頼通知書 (新規登録通知)

依頼通知書のフォーマットイメージです。引取予定者、B/L番号、本船名、航海番号、入港日、個数、重量、容積、引取予定日、引取業者名、搬出形態、運送業者名、コンソリ業者名、税関検査有無、返却有無、社内整理番号、連絡先、記事(1)、記事(2)、記事(3)が記載されています。

【図3】 依頼通知書 (訂正通知)

訂正通知書のフォーマットイメージです。訂正有無のチェックボックスと、依頼通知書と同様のデータ項目が記載されています。

訂正通知には、各項目毎の訂正の有無を出力する。

1. CFSから輸入貨物を引き取る際の手続きのシステム化

(3) 業務フロー（保税蔵置場→荷主等）（業務画面・帳票イメージ）

(※) 画面・帳票イメージは全て開発中のものです。

保税蔵置場から荷主等へ回答する際の業務画面イメージ及び帳票イメージは以下のとおりです。



【図1】 呼出し画面

※回答通知書は【図3】参照

【図2】 通知画面

【図3】 回答通知書（新規登録通知）

訂正通知には、各項目毎の訂正の有無を出力する。

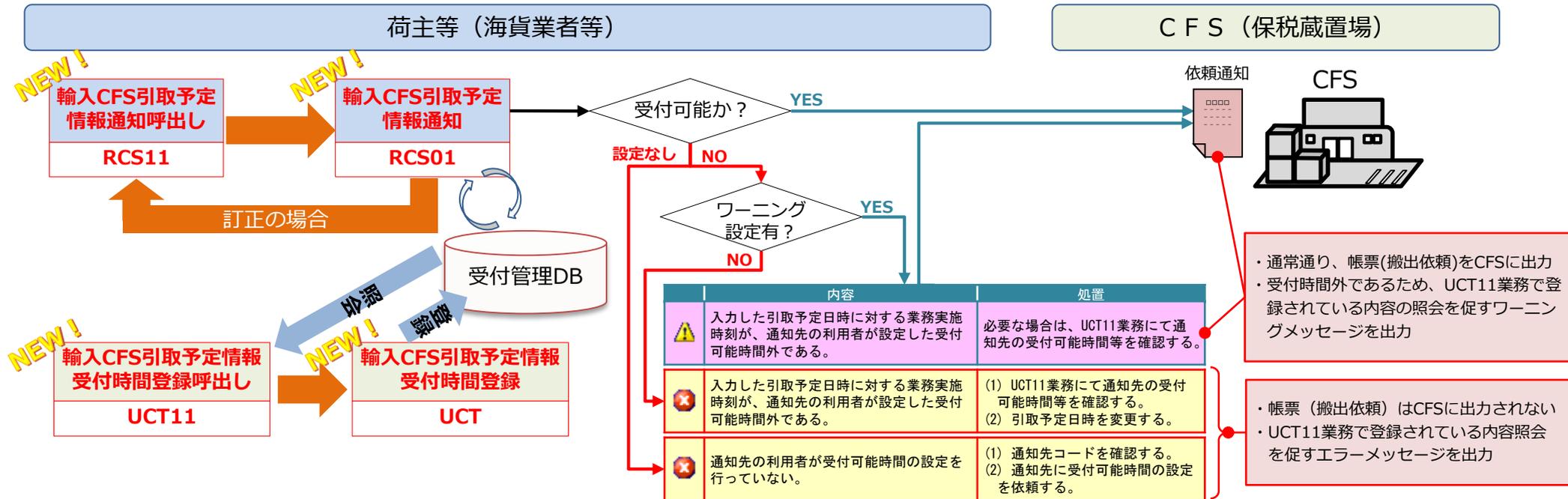
1. CFSから輸入貨物を引き取る際の手続きのシステム化

(4) RCS01業務の実施可能時間の設定 (i) (チェック機能の概要)

CFS (保税蔵置場) が「輸入CFS引取予定情報受付時間登録」 (UCT) 業務を行うことにより、「RCS01業務にて荷主等がCFS (保税蔵置場) へ搬出依頼を行う『受付終了時刻』」及び「RCS01業務にて入力可能な『引取予定日時』」の設定を可能とします。

UCT業務の登録者による訂正・削除、及び荷主等による期限時刻の照会のため、登録済み情報を呼び出すことも可能です。

なお、**UCT業務で受付時間の登録を行っていない利用者を通知先としてRCS01業務を実施した場合は、業務エラー**となります。



【UCT業務の処理概要】

- ・UCT業務で受付終了時刻等を登録
- ・利用者コードからUCT11業務で呼出し、上書き訂正を可能とする
- ・RCS01業務の業務実施日、時刻と引取予定年月日から引取り依頼が可能な時間帯であるかチェックを行う
チェックの結果、業務実施が時間外の場合は、RCS01業務実施者に対しエラー若しくはワーニングメッセージを出力
- ・受付日の登録状況を確認したい場合は、UCT11業務で照会する (**荷主側でも実施可**)

(※) エラーメッセージ等は現時点の想定のものです。

1. CFSから輸入貨物を引き取る際の手続きのシステム化

(4) RCS01業務の実施可能時間の設定 (ii) (UCT業務入力画面)

(※) 画面イメージは全て開発中のものです。

「輸入CFS引取予定情報受付時間登録」(UCT)業務の業務画面及び入力項目は以下のとおりです。

UCT11 輸入CFS引取予定情報受付時間登録呼出し
ファイル(F) 表示(V)

ユーザーコード*



UCT 輸入CFS引取予定情報受付時間登録
ファイル(F) 表示(V)

ユーザーコード

処理区分* (9:新規登録 5:訂正 1:削除)

搬出依頼受付終了時刻

土曜日対応可 日・祝日対応可

ワーニング出力 搬出依頼の当日対応可

記事欄

項目	必須/任意	概要				
利用者コード	—	呼出し時に利用者コードを出力。(入力不可項目)				
処理区分	必須	新規登録・訂正・削除の処理区分を入力。				
搬出依頼受付終了時刻	任意	RCS01業務の受付最終時刻を設定する。 当該時刻より後に「引取予定日時」が翌平日※のRCS01業務を実施すると、ワーニング又は業務エラーとなる。 (※)「引取予定日時」が翌々平日の場合は可能				
土曜日対応可	任意(注)	本項目に✓すると、「引取予定日時」が土曜日であっても、平日とみなしてRCS01業務実施を可能とする。				
日・祝日対応可	任意(注)	本項目に✓すると、「引取予定日時」が日曜日又は祝日であっても、平日とみなしてRCS01業務実施を可能とする。				
ワーニング出力	任意(注)	本項目に✓すると、搬出依頼受付終了時刻より後にRCS01業務を実施した場合に業務エラーではなく、ワーニングの出力とする。				
搬出依頼の当日対応可	任意(注)	本項目に✓すると、業務実施日当日の引き取り依頼を可能とする。				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>チェック</th> <th>RCS01業務実施可能時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あり <input checked="" type="checkbox"/></td> <td>「引取予定日時」が業務実施日の当日であっても、RCS01業務実施可能。</td> </tr> <tr> <td>なし <input type="checkbox"/></td> <td>「引取予定日時」が業務実施日の翌日以降の場合のみ、RCS01業務実施可能。</td> </tr> </tbody> </table>	チェック	RCS01業務実施可能時間	あり <input checked="" type="checkbox"/>	「引取予定日時」が業務実施日の当日であっても、RCS01業務実施可能。
チェック	RCS01業務実施可能時間					
あり <input checked="" type="checkbox"/>	「引取予定日時」が業務実施日の当日であっても、RCS01業務実施可能。					
なし <input type="checkbox"/>	「引取予定日時」が業務実施日の翌日以降の場合のみ、RCS01業務実施可能。					
記事欄	任意	引取者への通知事項など、自由に入力する。				

《参考》「輸入CFS引取予定情報通知」(RCS01)業務画面(抜粋)

RCS01 輸入CFS引取予定情報通知
ファイル(F) 表示(V)

処理区分*

通知先コード*

B/L番号* ID通知枠番

記号番号

引取予定日時*

引取業者名

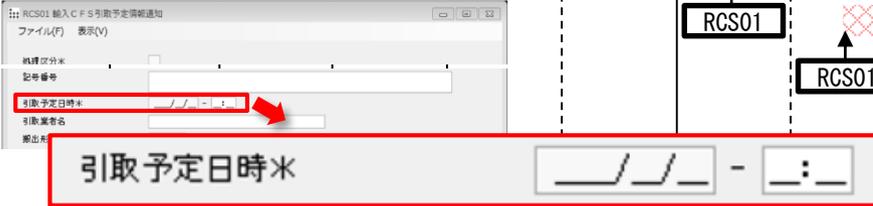
搬出形態*

(注) チェックボックスの選択は任意ですが、電文上は必須項目(0:チェックなし、1:チェックあり)となります。

1. CFSから輸入貨物を引き取る際の手続きのシステム化

(4) RCS01業務の実施可能時間の設定 (iii) (RCS01業務実施時間帯別「引取予定日時」の対応①) 【当日対応不可】

UCT設定内容から、RCS01業務実施時刻毎の「引取予定日時」入力可能時間帯は以下のとおりです。(当日対応不可の場合)

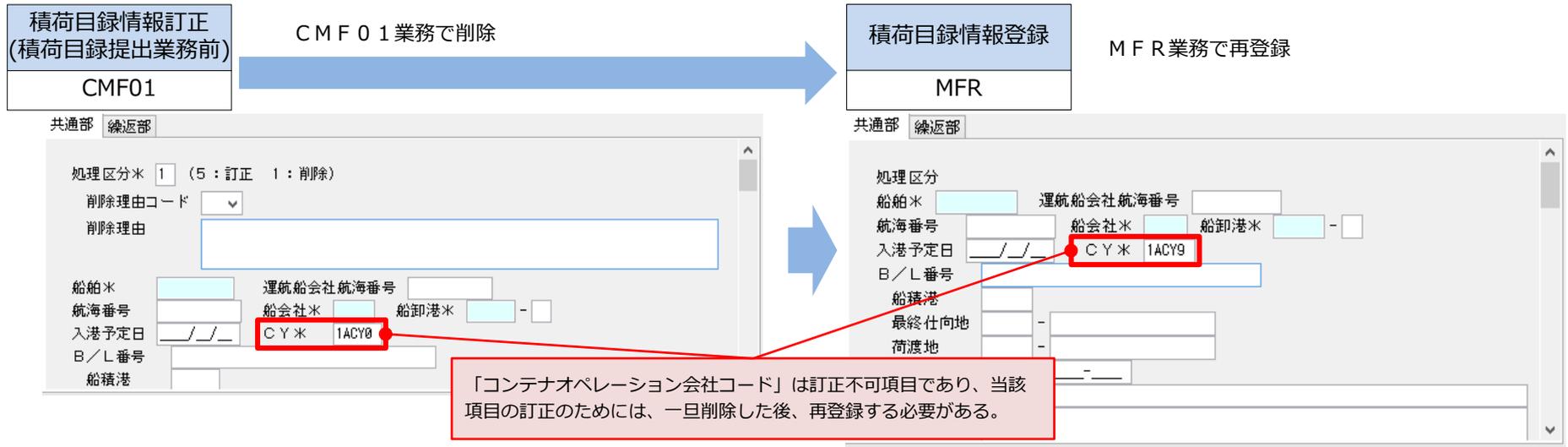
「引取予定日時」として 入力可能な日時	水 16:00	木 16:00	金 16:00	土 16:00	日 16:00	月 16:00	
UCT設定内容	不可	可能	可能	不可	不可	可能	平日業務実施例
搬出受付終了時刻 16:00	不可	不可	可能	不可	不可	可能	
<input type="checkbox"/> 土曜日対応可							
<input type="checkbox"/> 日・祝日対応可							
<input type="checkbox"/> ワーニング出力							
<input type="checkbox"/> 搬出依頼の当日対応可							
							
搬出受付終了時刻 16:00	不可	不可	可能	可能	不可	可能	土日祝日業務実施例
<input checked="" type="checkbox"/> 土曜日対応可							
<input type="checkbox"/> 日・祝日対応可							
<input type="checkbox"/> ワーニング出力							
<input type="checkbox"/> 搬出依頼の当日対応可							
搬出受付終了時刻 16:00	不可	不可	可能	可能	可能	可能	
<input checked="" type="checkbox"/> 土曜日対応可							
<input checked="" type="checkbox"/> 日・祝日対応可							
<input type="checkbox"/> ワーニング出力							
<input type="checkbox"/> 搬出依頼の当日対応可							

2. 「コンテナオペレーション会社コード」一括訂正業務の新設

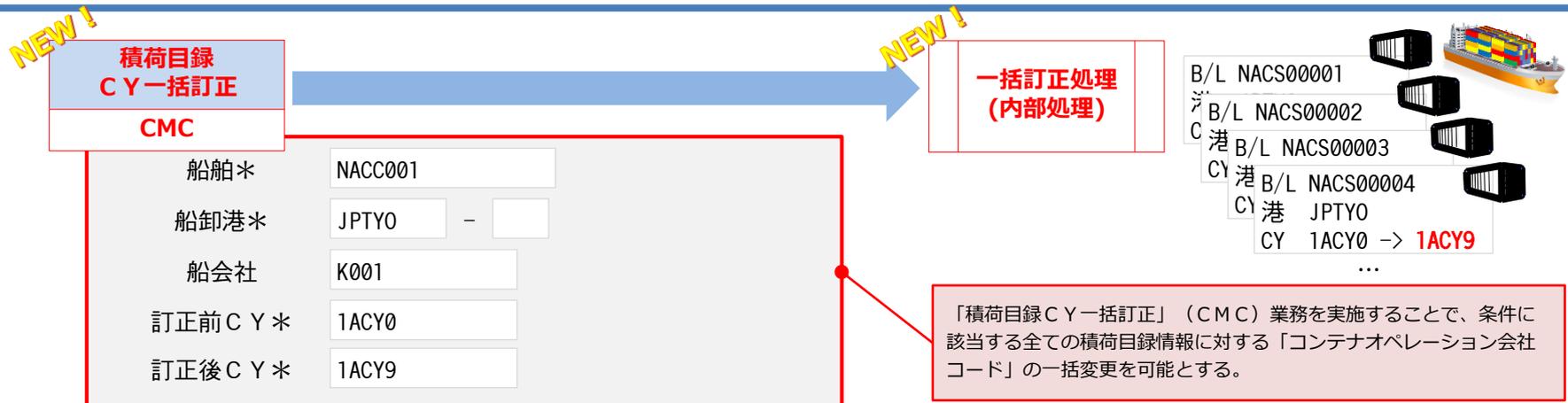
(※) 画面イメージは全て開発中のものです。

現行は、積荷目録情報の「コンテナオペレーション会社コード」を訂正するためには、一度当該B/Lを削除したのちに再度登録しなおす必要があります。「積荷目録CY一括訂正」(CMC)業務を新規に作成し、積荷目録提出前の「コンテナオペレーション会社コード」を一括して訂正できるようにします。

業務新設前



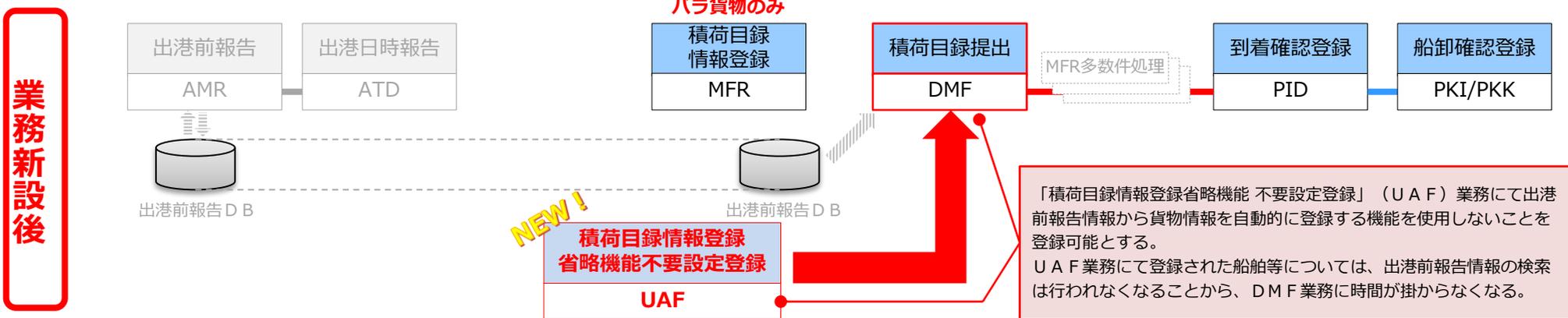
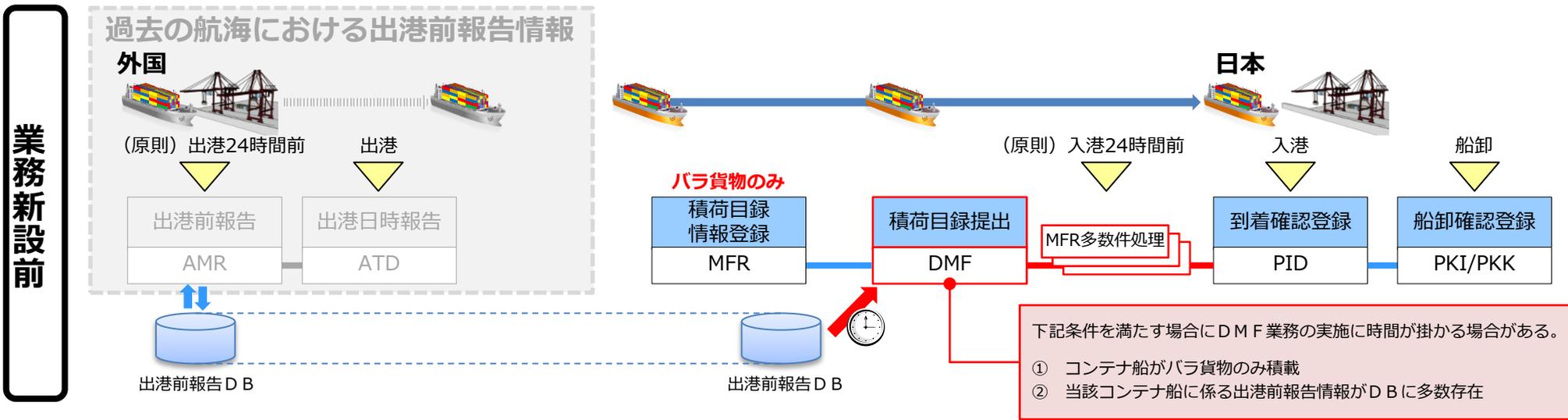
業務新設後



3. 出港前報告情報を利用した積荷目録情報登録機能の不要設定を登録する利用者設定業務の新設

(1) プログラム変更概要

コンテナ船がバラ貨物のみ積載してきた場合には、コンテナ貨物に係る「積荷目録情報登録」(MFR)業務が実施されていないため、「積荷目録提出」(DMF)業務にて出港前報告から貨物情報を自動的に登録する機能にて対象貨物が存在しないことのチェックに多大な時間が掛かっています。このため、「積荷目録情報登録省略機能 不要設定登録」(UAF)業務を新規に作成し、「出港前報告情報から貨物情報を自動的に登録する機能を使用しない」ことを明示的に登録できるようにします。



3. 出港前報告情報を利用した積荷目録情報登録機能の不要設定を登録する利用者設定業務の新設

(2) 積荷目録情報登録省略機能 不要設定登録 (UAF) 業務画面

(※) 画面イメージは全て開発中のものです。

「積荷目録情報登録省略機能 不要設定登録」(UAF)業務の業務画面イメージ及び入力項目は以下のとおりです。
また、「積荷目録情報登録省略機能 不要設定情報照会」(UAF01)業務の照会業務画面イメージは以下のとおりです。

NEW! ※登録画面は【図1】参照

NEW! ※照会画面は【図2】及び【図3】参照



【図1】登録画面

【図2】照会画面 (入力)

【図3】照会画面 (出力)

項目	必須/ 任意	概要
処理区分	必須	「9：登録」又は「1：削除」の処理区分を入力。
船会社コード	必須	船会社コードを必須入力する。
船卸港コード	任意	船卸港単位又は船舶単位の登録を行う場合に入力する。 なお、入力者が船舶代理店の場合は必須入力する。
船舶コード	任意	船舶単位の登録を行う場合に入力する。

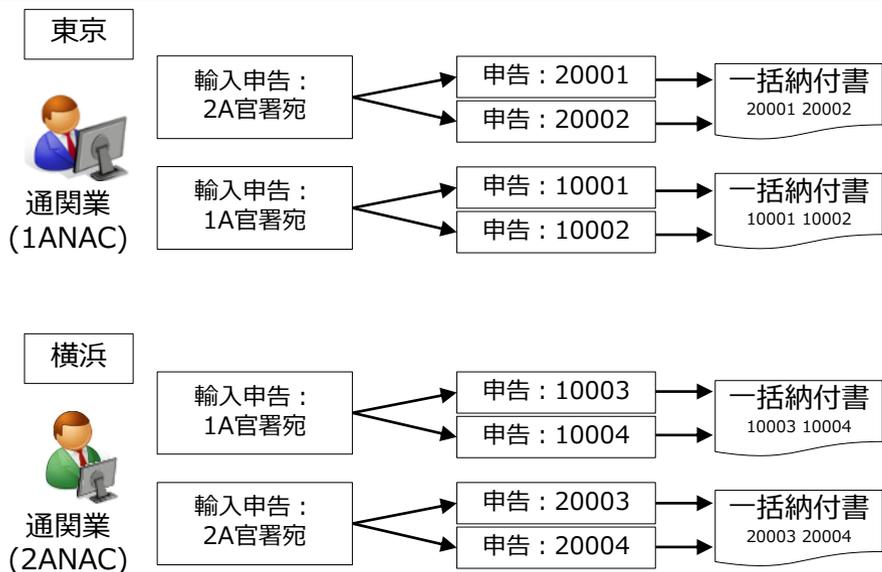
4. 包括延納に係る一括納付書出力単位の変更

(1) プログラム変更概要

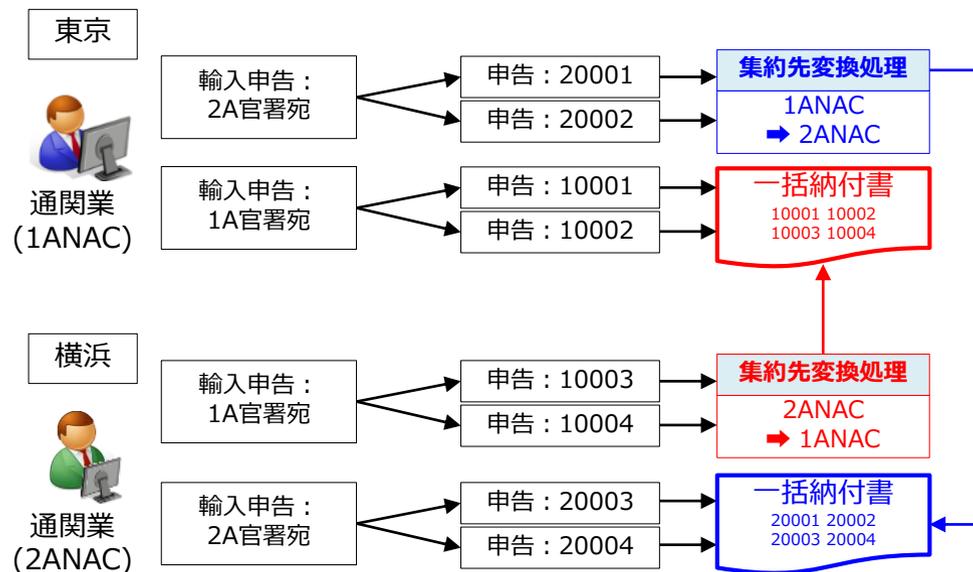
自由化申告により1通関業者が複数の税関官署に対して輸入申告を行うことが可能となりましたが、一括納付書の集約単位として「申告者の利用者コード」が含まれることから、**同一の申告官署、輸入者コード、担保登録番号、納期限、納付方法等**であっても、申告者の利用者コードが異なる場合には、一括納付書は別々に作成されています。

このため、「一括納付（包括延長）集約先登録」（UIK）業務を新規に作成し、「申告者の利用者コード」及び「申告官署」単位に集約先の利用者コードを設定することにより、自由化申告により申告者の利用者コードが異なっている場合であっても、1枚の一括納付書にまとめることを可能にします。

業務新設前



業務新設後



NEW!

一括納付（包括延長）
集約先登録
UIK

登録

一括納付（包括延長）集約先DB 設定例

申告者	申告官署	集約先利用者
1ANAC	2A	2ANAC
2ANAC	1A	1ANAC

(※) 「申告者」と「集約先利用者」は同一企業である（利用者コードの末尾3桁が同じ）必要があります。

4. 包括延納に係る一括納付書出力単位の変更

(2) 一括納付（包括延長）集約先登録（UIK）業務画面

(※) 画面イメージは全て開発中のものです。

「一括納付（包括延長）集約先登録呼出し」（UIK11）業務及び「一括納付（包括延長）集約先登録」（UIK）業務の業務画面イメージ及び入力項目は以下のとおりです。



【図1】呼出し画面

※入力内容は、前頁の設定にするための入力例です。

区分	項目	必須/任意	概要
追加	申告官署	必須	集約する対象の申告先税関官署コードを必須入力する。
	集約先利用者	必須	集約先とする利用者コードを必須入力する。
	適用開始年月	必須	集約を開始する年月を必須入力する。翌月以降のみ入力可。
	適用終了年月	任意	集約を終了する年月を入力する。適用終了年月を指定しない場合には入力不要。 入力する場合は、適用開始年月 ≤ 適用終了年月であること。
訂正	削除	任意	削除する場合に「D」を入力する。
	適用終了年月	任意	変更する場合に集約を終了する年月を入力する。適用終了年月を指定しない場合には入力不要。当月以降のみ入力可。 入力する場合は、適用開始年月 ≤ 適用終了年月であること。

【図2】登録画面

《参考》6次NACCS更改後のプログラム変更一覧

【2018年12月リリース】

※詳しい内容は、NACCS掲示板に掲載している「NACCS業務仕様・関連資料」内の「NACCSプログラム変更に関する説明資料」をご覧ください。

	プログラム変更名	プログラム変更後の内容
1	「蔵入等航空貨物到着確認(BAS)」業務の追加	<p>① 航空貨物の蔵入承認申請、移入承認申請、総保入承認申請及び展示等申告(併せ運送兼用)に対して、搬入先の民間利用者※であっても、到着確認業務が実施できるよう、「蔵入等航空貨物到着確認(BAS)」業務が新設されました。</p> <p style="text-align: right;">※本業務は、搬入先の「保税蔵置場利用者」のみが実施可能。</p> <p>② 税関又は民間利用者による到着確認業務の実施履歴を「輸入貨物情報照会(IAW)」業務にて照会できるようになりました。</p>
2	航空保税運送申告の仕様変更	<p>航空保税運送において保税運送承認通知情報等の帳票を入力者以外の発送地、到着地の保税蔵置場に出力できるようになりました。</p> <p>なお、新規出力情報を出力するには、「保税地域関連情報登録(UBA)」業務にて新たに設定される項目の出力可否設定を行う必要があります。</p>
3	「貨物情報照会(ICG)」業務の仕様変更 (海上輸出貨物の経由地による照会可能化)	<p>「輸出貨物情報登録(ECR)」業務及び「積戻貨物情報登録(RCR)」業務の「経由地」項目に入力された保税地域コードの利用者が「搬出確認登録(輸出許可済)(BOC)」業務実施前にICG業務を実施できるようになりました。</p>
4	「時間外執務要請届(OSA)」業務の仕様変更 (執務時間内での実施可能化)	<p>「時間外執務要請届(OSA)」業務にて、届出先時間帯を届出先官署の開庁時間内に指定した場合であっても、指定した時間が一般執務時間以外の時間帯※であれば、正常終了するように変更されました。</p> <p style="text-align: right;">※平日は8:30-17:00以外(8:30,17:00を含む)、土日祝日は0:00-23:59(24時間入力可能)をいう。</p>

【2019年2月リリース】

	プログラム変更名	プログラム変更後の内容
1	乗組員・旅客・危険物情報の申請等呼出の可能化 (WebNACCS)	<p>乗組員・旅客・危険物情報が、申請等呼出の対象となりました。</p> <p>申請等呼出の際に呼び出す情報が、乗組員・旅客・危険物情報をアップロード情報と紐付けて申請している場合はアップロード情報を紐付けた状態で呼び出します。</p> <p>また、乗組員・旅客・危険物情報を手入力で申請している場合は手入力された状態で呼び出します。</p>
2	申請情報及び乗組員・旅客・危険物情報のダウンロード・アップロード一括可能化(WebNACCS)	<p>書類状態確認画面にボタンを追加し、「書類状態確認(WVS)」業務にて外部ファイル(申請情報)のダウンロード時に出力されるCSVファイルと乗組員・旅客・危険物情報のダウンロード時に出力されるCSVファイルを、1つのzipファイルに圧縮して一括でのダウンロードが可能となりました。</p> <p>また、各業務の申請画面からzipファイルでのアップロードが可能となりました。</p>

《参考》6次NACCS更改後のプログラム変更一覧

【2019年3月リリース】

※詳しい内容は、NACCS掲示板に掲載している「NACCS業務仕様・関連資料」内の「NACCSプログラム変更に関する説明資料」をご覧ください。

	プログラム変更名	プログラム変更後の内容
1	「輸出入者情報照会(IE)」業務のエラーメッセージ変更	照会対象の税関発給コードまたはJASTPROコードが非公開設定又は登録されていない場合、システムの登録された「非公開識別」を参照して「非公開」である場合と、当該コードが登録されていない場合のエラーを区別して出力されるようになりました。
2	NACCSを利用して行われた食品等輸入届業務の件数等の把握が可能となるような管理資料の提供	NACCSを利用して行われた食品等輸入届業務の件数等の把握が可能となるような管理資料を新設しました。 管理資料名「食品等輸入届一覧データ(CBD5500)」を出力する為には「管理資料情報配信要否登録(UKS)」業務を利用し、「食品等輸入届一覧データ(CBD5500)」の配信登録を行う必要があります。
3	「貨物情報仕分け(CHJ)」業務等におけるネット重量更新条件の仕様変更	「貨物情報仕分け(CHJ)」業務の仕分け、「貨物取扱登録(改装・仕分け)(SHS)」業務の内取り及び改装において親貨物のネット重量、ネット重量単位コードを子貨物に引き継がず、ネット重量を「0」、ネット重量単位コードを「スペース」で登録します。 子貨物の照会を行うと、ネット重量、ネット重量単位コードは空白で表示されます。
4	事項登録業務における少額の自由貿易協定扱いの価格チェック処理の変更	同一の原産地コード、同一の自由貿易協定であれば、異なる原産地(申告)種別であっても、税関により原産地(申告)種別が同一の自由貿易協定としてシステムに登録されている場合、少額の自由貿易協定扱いの限度額チェックにおける課税価格の合算対象としました。
5	EPA税率適用可能ワーニング等の出力条件の変更	EPA協定税率が適用可能な品目に係る上記注意喚起メッセージ及び「特惠税率適用可能識別」の出力条件について、予め税関がシステムに登録を行った国については、注意喚起メッセージ等の出力対象外としました。

【2019年9月リリース】

	プログラム変更名	プログラム変更後の内容
1	「時間外貨物積卸届(OVS)」業務の届出制限数の撤廃	1日の届出件数の上限を撤廃し、全対象船舶分の届出ができるようになりました。
2	「ACL情報登録(コンテナ船用)(ACL01)」業務のワーニング処理変更	「ACL情報登録(コンテナ船用)(ACL01)」業務の仮登録、本登録又は訂正において、荷受形態が「52: CFS荷受の場合」、「54: Direct (Breakbulk) 荷受の場合」で繰返部の重量または容積に入力がない場合は、ワーニングを出力しないように変更しました。
3	「貨物情報照会(ICG/ICGOW)」業務の指定情報追加(HST:履歴情報)	「貨物情報照会(ICG/ICGOW)」業務で業務履歴を100件まで確認可能とする指定情報を追加しました。
4	「HAWB情報登録(輸入)(HCH/HCH01)」業務の税関官署チェック及び管轄税関チェックの仕様変更及び税関官署コードの補完機能の追加	混載仕分けも税関を超えて対応できるよう、管轄税関に対するチェック機能を削除し、必須項目を任意項目に変更しました。